
悲しきジョージ

パンダサン1121

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悲しきジョージ

【Nコード】

N8862P

【作者名】

パンダサン1121

【あらすじ】

『うみねこのなく頃に』

有名な同人ゲームである。

アニメでの原作知識のみを武器として右代宮譲治（の中の人）が魔女に挑む。

生存率が限りなく低いその世界で憑依者は生き残ることができるのか。

そして作者は黄金の真実にたどり着けるのか。

憑依初日（前書き）

いまさらながら、うみねこです。

とうとう完結するというところで（EP8発売おめでとう）投稿します。

これは私がアニメを見て考えた推理・考察を基にしています。

結果、間違っていましたでしたがそれを譲治君にやってもらって新たな物語をつむいでもらおうと思います。

楽しんでいただけたらいいのですが。

憑依初日

やあ、おはようみんな。

元気かい？

毎日、ネットしてる？

僕はもう、やってないんだ。

何でかって？

それはね、

ネットがまだ普及してない世界にいるからさ。

憑依物つてみんなわかるよね。

マンガやアニメの登場人物になって活躍する物語さ。

人気のキャラクターのときもあれば、名前があるだけのモブなときもある。

ただ、どちらの原作知識を持ってそれなりに活躍するよね。

じゃあ、僕の場合はどうかといふとかなりヤバイ！

『うみねこのなく頃に』ってゲーム知ってる？

別にアニメでもマンガでも小説でもいい。

登場人物がほぼ全滅する話さ。

簡単に説明するよ。

ある大富豪一家が年に一回の親族会議のために本家がある六軒島に集まる。

台風によって外界から閉ざされた島。

本家に伝わる魔女伝説。ホールに飾られた絵画と怪しげな碑文。

碑文をなぞるように起こる連続殺人。

犯人は誰か？それとも魔女の仕業なのか？
台風が去り、浜辺でうみねこがなく頃に生き残ったものはなし。
以上、わかったかな？

僕が憑依したのはこの中の登場人物。

大富豪右代宮家当主・右代宮金蔵の第2子・右代宮絵羽の第1子・
譲治。

マザコン気味の23歳・メガネ坊やさ。

父であり、大手外食チェーンの経営者でもある秀吉について帝王学
を学んでいる最中。

メイドで巨乳な彼女がいるリア充野郎でもある。

ちなみにこの親族会議で彼女にプロポーズする最中なのさ。

さて、なにがやばいってこのゲーム、俺、真相知らねえの。

ゲームのほうは完結してからやろうと思ってやってないし、アニメ
でも謎は全然明かされてないし。

なのに憑依してから原作が始まるまであと1日しかねえ。

正確にはもう夕方、明日の朝出発だ。

無理だろう！時間なさすぎ！

どうやって惨劇回避すればいいのか……

さつきから俺はメモ帳片手に考え続けている。

メモには碑文の全文が書かれている。

俺が書いたわけではない。

正直覚えてないし。

譲治（前の人）が書いたものである。

たまたまメモ帳に書いてあったのを発見したのである。

だが、真剣に考えていたとは思いがたい。

他に碑文に関する記述がないためである。

今、俺にできることはこの碑文をとくことだ。
なざなら、アニメでは譲治の母・絵羽が碑文をとりて唯一生き残ったからだ。
生き残るためには碑文の解読が必須、そう考えた。
絵羽が解いたということは解けるようにできているということだ。
できるはず。

自室でうんうんうなっているとドアがノックされた。

「どうぞ。」

入ってきたのは絵羽だ。

「あゝら、まだおきてたの？明日は早いんだからもうねなさい。」
語尾を延ばしおっとりした口調で息子をたしなめる。

23の息子がいるとは思えないほど、肌つやがいい。

目じりにシワが見えるが同年代よりはずつと若く見えるだろう。

実際、パーティ等では年甲斐もなく、派手な衣装を着ている。

「うん、もう寝るよ。」

俺はばれないようにできる限り譲治の言葉を真似ている。

今のところうまく言っているようだ。

部屋に入ってきてなにをしているのかと俺の手元を覗く。

「あゝら？これって碑文？どうしたの？」

「うん、明日は親族会議だからマリアちゃんやエンジエちゃんが退屈しないよう宝探しをしようと思って。」

半ば本当である。なんとしても宝は見つけなければならぬ。自分の命のために。

譲治の知識を受け継いでいない俺が見つけるためにはバトラや、ジエシカを味方につけるしか方法はない。

ちなみにバトラ、ジエシカ、マリア、エンジエは譲治の従兄弟である。

漢字は忘れた。「バトラ」が「戦人」くらいしかわかんね。

「あら、そゝお？悪いわねえ、子守を押し付けちゃって。本当はあ

あなたにも話し合いに加わってもらってもいいんだけど。」

「いや、遠慮しておくよ。それにバトラ君は6年ぶりだしね。久しぶりに従兄弟がそろうんだから。」

そう言っていると納得したようだ。

話し合いに加わるのはマジ勘弁。

時間ももつたいたいのもあるが、あんな毒素を振りまくような話し合いに混ざれるか。

アニメではあまり描写はなかったが、実際には想像を絶するものだろう。

テーマが爺さんの莫大な遺産なのだから仕方がないが。

会議は紛糾して罵り合いになり、正直暴力一歩手前だったと思う。積極的に関わりたいと思わない。

時間を割かれるとなればなおさらである。

「そうね。それがいいわあ。」

おやすみ、と部屋を出て行くこととする絵羽。

マズイ。

今のうちに聞いておかないといけないことがある。

「ねえ、母さん。ちょっと聞いてもいいかな？」

「なあに、譲治？」

つづく

憑依初日（後書き）

悲しきジョージ、いかがでしたでしょうか・

初めての小説ということでしたたない文章ですが、がんばって書き続けます。

そのうえで楽しんでいただけたら幸いに思います。

推理、トリックやキャラクターの言動に矛盾などがあった場合、（
ないようにしますが）すぐに手直しいたします。

それもまた、素人の仕事だと笑って許してください。

原作前日、まだ1日は終われない(前書き)

懐かしき、故郷を貫く鮎の川。

黄金郷を目指す者よ、これを下りて鍵を探せ。

川を下れば、やがて里あり。

その里にて二人が口にし岸を探れ。

そこに黄金郷への鍵が眠る。

鍵を手にしし者は、以下に従いて黄金郷へ旅立つべし。

第一の晩に、鍵の選びし六人を生贄に捧げよ。

第二の晩に、残されし者は寄り添う二人を引き裂け。

第三の晩に、残されし者は誉れ高き我が名を讃えよ。

第四の晩に、頭を抉りて殺せ。

第五の晩に、胸を抉りて殺せ。

第六の晩に、腹を抉りて殺せ。

第七の晩に、膝を抉りて殺せ。

第八の晩に、足を抉りて殺せ。

第九の晩に、魔女は蘇り、誰も生き残れはしない。

第十の晩に、旅は終わり、黄金の郷に至るだろう。

魔女は賢者を讃え、四つの宝を授けるだろう。

一つは、黄金郷の全ての黄金。

一つは、全ての死者の魂を蘇らせ。

一つは、失った愛すらも蘇らせる。

一つは、魔女を永遠に眠りにつかせよう。

安らかに眠れ、我が最愛の魔女ベアトリーチエ。

* 右代宮家 本館の碑文より

原作前日、まだ1日は終われない

「ねえ、母さん。ちょっと聞いてもいいかな？」

「なあに、譲治？」

必要な情報が足らな過ぎる。

しかし集める時間はない。

パソコンなんてまだ一般的ではないしネットもまだないだろう。直接聞くしかない。その中でも絵羽のもつ情報は特に必要だ。

彼女は碑文の謎を解く可能性のある人物なのだから。

「碑文についてだったら、あまり力にはなれないわよう。母さんにも解けてないんだから。」

そう言っ顔をわずかに歪ませる。

悔しいのだろう。

碑文の解読に誰よりも力を入れていたのは絵羽なのだから。

碑文を解いた者が次期当主。

明言はされていないがそう解釈できるないようなだけに、

次期当主をあきらめていた絵羽が最後のチャンス、

いや、これは遠まわしに自分を指名しているに違いないと思ってかなり時間を割いて考え、

それでも真実にはたどり着くことはできなかった。

子供の頃から当主の座を望み、そのたびに失意の底に落とされ、

嫁いでも籍を抜けず虎視眈々とチャンスを伺い、

やがて実子である譲治に夢を託し厳しく育てていた。

その執念ゆえにアニメでは自ら殺戮者となっていたほど。

今、のんびりとした口調で話しているが、本当は気性が激しく、激すれば容赦なく深く人の心を抉る。

まあ、人間的のどうかというのはこの際関係がない。
今は聞きたいことを聞くだけだ。

「あの碑文、本当に御祖父様が書いたのかな。」
「どうということ?」

そう、これが最初の疑問である。

原作ではどうなっているのか知らないが、アニメでは碑文の扱いは少ない。

EP1では謎解きをほとんどしていない。

EP2ではいきなり黄金が出てきて謎解き事態なかった。

EP3では絵羽とローザ（祖父・金蔵の第4子、次女）が発見したが細部は不明。

最後のEP4ではこれまでの展開とは違いすぎて、碑文は触りすらなかった。

そこでこう考えた。

碑文は実は重要ではない。

作中に何度も『碑文を解け』とでているがこれはミスリードである。碑文に犯人の手がかりはなく、黄金もない。

だが、何らかのメッセージがこめられており、それが生存への鍵である。

とすれば、この碑文は金蔵ではなく、殺戮者の予告状ではないだろうか。

「なにを言いたいのかわからないけど、あの碑文を作らせたのは間違いなく御父様よ。」

御父様が自ら業者とお話して発注したのを兄さんが見てるもの。

兄さんが次期当主とはいえ、それに口を挟むことはできないはずよお。

第一、御父様が思い入れのある肖像画の前に、自分の意に沿わな

いものを置くはずが無いわ。」

なるほど、金蔵が書いたことは間違いないか・・・
ちなみに絵羽のいう兄さんとは金蔵の長子・クラウスのことである。

「そっか。わかったよ、ありがとう母さん。」
どういたしまして、と手を振ってドアに手をかける絵羽。

「そうだ、御祖父様がどこでお生まれになったのか、知ってる？」
作中にほとんどかかれていなかった謎。
碑文をといた絵羽は知っているはずだ。

「・・・・・・・・」

原作前日、まだ1日は終われない（後書き）

短くてすみません。

そして未だ原作にいたっていません。

まあ、原作の時間が来ればその後の展開は早いので
悠長に推理できる時間は今しかない、ということ。

今回の推理の出題テーマは碑文、というより碑文を解読すれば助かるのか？

それはなぜか？です。

次の話で主人公なりの解を出します。
それが正解とは限らないわけですが。

応援よろしくお願いします。

原作前日深夜、まだまだ眠ることができない(前書き)

金蔵、ある意味最も謎である。

絵羽やクラウスも詳しいことは知らず伝聞でしかなく、

古い付き合いの南條、源次、熊沢も多くを語らず。

まさかあれがヒントだったとは。

アニメではほとんど触れてなかったぞ。

原作前日深夜、まだまだ眠ることができない

ここで、金蔵について考えてみよう。

碑文の最初に『懐かしき、故郷』と出ている以上、スタート地点がわからないと解きようが無い。

まあ、作中にバトラが飛ばして次っ！とやっていたが。

とにかく金蔵について、だ。

アニメではほとんど語られていなかったため、俺の持つ情報は少ない。

右代宮家は歴史のある名家であり、本家はもともと小田原にあったそうだ。

だが、金蔵の生まれはそこではない。

分家の子に過ぎなかった金蔵はちよっとした運命のいたずらで当主になった。

その後は胡散臭くなるが、魔女を召喚し莫大な黄金を貰い受け、それを元手にさまざまな事業に成功。

この武勇伝は神がかっていたらしい。

そして当時無人島だった六軒島を買い、屋敷を立てて現在は楽隠居をしている。

アニメには第1話から出てきたがその会話からの情報は正直当てにならない。

なぜなら 金蔵はすでに死んでいるからだ。

魔女がアニメの最終話で白状していた。

金蔵はすでに死んでいる。

なのにアニメにもその姿が出てきて、周りも生きているかのよう

振舞っている。

ここに大きなヒントがありそうだ。

死んだ金蔵、それを隠している本家とその使用人。

話を戻そう。

つまり、作中の金蔵は幻であり、その会話や行動も実際には無かった。

なにが言いたいかというと、俺は金蔵のことをまったく知らない、ということ。

知らない人間のことを考えても仕方が無いので絵羽からいろいろ聞きだしたいところだが、

あまり質問しすぎると怪しまれる。

そこで元も重要なことだけを聞いてみた。

「御祖父様がどこでお生まれになったのか、知ってる？」

「………台湾よ。」

おい！日本じゃねえのかよ！

まさか黄金も台湾とかいうなよ？

となると、いよいよ碑文の解読の意味が薄れてきた。

絵羽もそれ以上詳しいことはよく知らないらしい。

それでよくここから解読して黄金へたどり着いたものである。

がしかし、俺はそれは妄想・狂言だったのではないかと思う。

何らかの過程で絵羽は当主を継ぎ、運良く惨劇を乗り切り、

後は右代宮グループを纏める為に金蔵の黄金伝説を持ち出したのではないか。

だとしたら、碑文をとくのに時間を割くことは生存に関しては無意味であり、

そんなことを考えるのは無価値なのかもしれない。

僅かに見えた光が閉ざされた瞬間である。

原作前日深夜、まだまだ眠ることができない（後書き）

碑文考察終了。

作者は碑文を解くことができませんでした。

ってかわかるか！

解けた人、まじっばねえす。

当時は解けなくても問題なし、と結論付けていましたが、

さて本当はどうなんでしょう。

皆さんもお考えください。

まだまだ続きます。

原作初日早朝、眠い、とはいってられない(前書き)

フーダニット？

誰が殺したのか？

要は犯人探し。

ミステリーの基本であり、ほとんどの推理物はこれがメインである。

ハウダニット？

どうやって殺したのか？

トリックの解明。

作家の腕の見せ所である。

いろんな作家が独創的なトリックを疲労してくれる。

しかし、独創的過ぎて読むに耐えないものも、中にはある。

ホワイダニット？

なぜ殺したのか？

動機。

殺人とは非常に大変な作業である。

俺の好きな作家の小説に、殺人をしようと考えた少年の話があった。

何度も人を殺そうと考え計画を練ったが、その度に思いとどまる。

結局最後の最後まで殺人を犯すことは無かった。

人は生きていく過程でさまざまなしがらみを抱え、殺意を抱いても

行動には移せない。

それができるのは、よほどの阿呆か、気狂いか、

そんなことを吹っ飛ばすような感情が生まれるか。

そんな話である。

ちなみに被害者側からすればフーダニット以外はどうでもいい。

しかし物語としては他の2つがないと話に深みがでない。

面白くない。

なにが言いたいのか。

この物語はただのミステリーでないことを俺は知っている。

魔女がいて、魔法があり、真実と嘘が入り乱れている。

ミステリーの常識が通用するのか疑問だが、

しかし謎を解くにあたってこの3つを無視することはできないと思う。

原作初日早朝、眠い、とはいってられない

昨晚、一生懸命考えた謎が無意味だと結論付けた俺は、寝ることを選択した。

現実逃避ではない。

一度寝て、情報を整理して考え直そうと思ったのである。

朝起きて、歯を磨き、着替えをして、朝食を食べた。

その後、家を出て駅に着き、電車に乗る。

それまでの間は自分の行動に意識を集中していた。

なにせ俺は譲治ではないので、彼の癖なんて知りようが無い。

行儀のいい譲治だから癖はないと思いき、普段の自分を出さぬよう慎重に行動していた。

俺が譲治でないとバレるとまずい。

なぜか。

それは絵羽にある。

女性は怖い。特に右代宮の女は。

夏妃（クラウスの嫁、頭痛持ち）、絵羽、ローザともに原作では銃を持って大暴れ。

自分の子供のためには修羅になれる女たちである。

絵羽は譲治を溺愛していた。

自身が女であったためと次期当主になれなかったという思いがあり、譲治にかける期待は半端ない。

言い寄ってくる女にも目を光らせ、譲治がこの年になってもチエリ一なのは半分は母親のせいだろう。

そんなくあいい、くあいい譲治ちゃんか他人に意識を乗っ取られたと知ったら。

ひぐらしを髣髴させる拷問によって俺の意識が壊れるまで責め続け

られるだろう。

これが朝一番、俺が考えたことである。だから俺は素の自分を出さないように苦心した。だが、そのせいで聞きたい情報を得ることも難しくなった。両親の視線におびえながら、しかしそれを表に出さず駅まで来たのである。

結論、ばれなかった。

俺の演技がよかったわけではないし、両親の目が節穴なわけでもない。

両親は朝から俺以上に緊張していて、俺のことに気が回らなかった。

今回の親族会議は特別な意味を持つ。

原作を多少知っている俺はもちろんだが、知らない両親にとってもだ。

実は両親の会社でトラブルがあり、至急莫大な資金が必要になったのだ。

今回はそれを無心に行くのだ。

場合によっては兄であるクラウドを脅迫して、もしくは絵羽がもらう予定の遺産相続分の前倒ししても。

気位の高い絵羽であるから、クラウドに頭を下げるのは死んでもごめんであろう。

つまり今回は例年以上に駆け引きが大事であり、失敗はできない。タベは2人で念入りに打ち合わせをしていたのだろう。

こころなしか目元が俺以上に黒い。

電車に乗ってもそれは変わらず、小声で何か話し合っている。

通路を挟んで隣の俺の席にはまったく聞こえていない。

このためにわざわざ席を離して切符を買ったのだろう。

まあいい。好都合だ。

こっちも考えることはいくらでもある。

俺の命はあとわずかしかない。

俺の脳をフル稼働して、何とか生き残る方法を考えるのだ。

原作初日早朝、眠い、とはいってられない(後書き)

前書きと本文の脈絡がない。

そんなお叱りが出てきそうです。

とりあえずここからはこれから起こる事件について思考をめぐらせます。

基本はアニメでしかうみねこを知らなかった俺基準ですので、ゲームをプレイしている人には多くの矛盾が見えるかもしれません。それでも楽しく読んでほしいとがんばっていきます。

原作初日電車の中、まずは登場人物の整理（前書き）

これから会う人たちは全員初対面。

本当なら先入観は持ちたくないが、今回は仕方がない。

うまく立ち振る舞うためにも予備知識をもって対策を練るべきだ。

原作初日電車の中、まずは登場人物の整理

まず、登場人物を整理しよう。

右代宮金蔵（以下金蔵）

右代宮家の当主。オカルトマニア。

関東大震災で傾いていた右代宮家の中興の祖。

六軒島を購入し、隠居してからは引きこもって黒魔術の研究をしている。

原作開始である1986年10月4日にはすでに死亡している。

しかし、それを隠されているため作中ではまるで生きているかのように扱われている。

死体は常に焼死体で発見されているのは、腐食を悟られないようにするためか？

右代宮蔵白（以下クラウス）

金蔵の長男。

事業に失敗して家計は火の車。

弟妹には嫌われていて、金蔵の財産を横領していると疑われている。

おそらくしているだろう。

黄金伝説は信じており、金塊を一つ所有している。

おそらく金蔵の死を隠している主犯。

右代宮夏妃（以下夏妃）

クラウスの妻。頭痛もち。

絵羽とは犬猿の仲。

時期当主の妻としてがんばっているが、

未だに衣服に家紋の刺繍を許されていないのがコンプレックス。

金蔵の死に関しては共犯だろう。

右代宮朱志香（以下ジェシカ）

クラウス、夏妃の娘。

喘息もち？正直怪しい。学園祭でバンドのヴォーカルしてたぞ！
使用人であるカノンに気がある？

次期当主の娘として教育されているがそれをわずらわしく感じている。

できれば当主を譲治に譲りたいと思っている？ほんとに？

金蔵の死を知っているかは不明。

右代宮絵羽（以下絵羽）

金蔵の長女。高飛車。

結婚しても秀吉を婿にして籍を抜かなかつた。

家督に執着して虎視眈々とチャンスをつかっている。

しかし、女というだけで継ぐ資格が無いと金蔵に言われたのが未だに納得できていない。

ジェシカが女だったため、やがて譲治が右代宮家を継ぐことを期待している。

なつひに対する態度がきつい。

EP3では碑文をとくが、それを独占するために一族を皆殺しにしたとされている。

右代宮秀吉（以下秀吉）

絵羽の夫。似非関西人。

恰幅がよく、明るく懐がでかい。絵羽との仲も良好。

外食チェーンを経営しているが、現在は性質の悪い連中に経営権を奪われそう。

今回の親族会議でなんとかしても金を無心したい。

右代宮讓治（以下讓治）

絵羽と秀吉の子。メガネ。俺が憑依している。

秀吉の下で帝王学を勉強中。

アニメでは二枚目で文武に優れた好青年に書かれている。

ただマザコン気味。

シャノンと恋仲でこの親族会議でプロポーズする。

右代宮留弗夫（以下ルドルフ）

金蔵の次男。元色男。

19年前に明日夢とでき婚。

6年前に明日無が亡くなり、霧江と再婚。

家督については興味なし。

何の仕事かは知らないが、現在アメリカで控訴されている。

示談金が億単位。

息子のバトラの出生で何か隠し事があるらしい。

右代宮霧江（以下霧江）

ルドルフの後妻。嫉妬女。

頭がよく、ルドルフを公私共に支えている。

前妻の明日夢に未だ嫉妬心をくすぶらせているようだ。

右代宮戦人（以下バトラ）

ルドルフと明日夢の息子、とされていたが、EP4で否定された。

しかし、金蔵の孫としては認められているようだ。

6年前、ルドルフと喧嘩して家を出たが、今回6年ぶりに家族会議に出席する。

明るく柔軟な思考の持ち主。

アニメでは主人公として描かれているが、なにげに1番怪しい。

全エピソードで最後まで生き残っているうえに、なぞも多い。

幻想世界での魔女と対決する姿もベルンカステルの与えた人格か

もしれない。

俺の中で容疑者第1候補。

右代宮縁寿（以下エンジエ）

ルドルフと霧江の娘。ブラコン。

腹痛により六軒島に來なかつたので事件とは無関係。

EP4ではEP3の12年後の世界で事件を追う。

絵羽の死後、右代宮家の家督を継ぐ。

年に1度、自分の誕生日に会うバトラのことが大好き。

しかし、バトラほどには両親のことを気にかけていない。

ひよつとしたら両親との仲はあまり良好ではなかつたのかもしれない。

アニメでは根暗で学校に友達がいなかった。

常に一人で、形見分けでもらつたマリアの日記を読むことが唯一の安らぎの時間。

マリアの魔法の弟子であり、マリアの日記を読むことで魔法を使えるようになる。

しかし、そののほとんどは妄想であり、実際の効果はない。

かなりイタイ子。

つまり魔法は妄想であり、これまでの描写は誰かの妄想である可能性が出てきた。

右代宮楼座（以下ローザ）

金蔵の次女。ヒス女。

普段はおっとりしているが、切れると怖い。

マリアの教育に頭を痛めている。

自身、会社経営をしているが（何の会社かはやっぱり忘れた）、兄弟からは道楽と思われている。

マリアの父親についてはアニメでは一切出てこなかつた。

結婚していたのかも不明。

EP2では最後まで生き残った。
EP2の犯人はこの人であった可能性が高い。

右代宮真里亞（以下マリア）

ローザの娘。かなりイタイ子。

常にうーうー言っている。

アニメでは、オカルト知識が豊富であり、随所でそれを披露するシーンが描かれている。

自身を魔女といい、魔女ベアトリーチェと友達だといっている。

EP4のマリアの日記ではプライベートが明かされた。

学校に友達はなく、一人人形遊びをしている。

ローザがくれたぬいぐるみがお気に入り。

実は事件はすべてマリアの妄想で実際には起こらなかったのでは
と誤ってしまふ。

根拠は作中に出てくる魔法陣がマリアの日記にあったこと。

ベアトリーチェからの手紙には難しい単語も出てくるのに流暢に
読んだこと。

EP3を除いてマリアがかなり優遇されていたこと。

正直、この子はあまり頭が良さそうではない。

にも関わらず手紙を読んだり、魔法陣の蘊蓄を言ったりしていた。
好きこそ物の上手なれとは言うものの、

聖書だとかへブライ語だとかに精通しているとは思いがたい。

誰かの受け売りで、それがたまたま出てきた？

怪しさ満点。

呂ノ上源次（以下源次）

本家の使用人。金蔵の信頼が最も厚い。

その信頼度は金蔵の部屋の合鍵を唯一渡されているほど。

使用人服には右代宮家の家紋が刺繍されている。

金蔵の死については当然知っているはず。

熊沢チヨ（以下熊沢）

本家の使用人。ひょうきんなばあちゃん。

家紋の刺繍はあったっけ？

金蔵の死を知っているかは不明。

知っている可能性は高いと思う。

紗音（本名さよ 以下シャノン）

本家の使用人。若く美人で巨乳なメイドさん。

孤児院出身で幼少から勤めている。たしか10年？

譲治の恋人。

しかし自分を家具だと卑下するクセがある。

EP2では恋人になるためにベアトリーチエと契約したが、実際は？

金蔵の死については知っているはず。

家紋の刺繍あり。

嘉音（本名不明 以下カノン）

本家の使用人。シャノンの弟？

陰口が多く、無愛想。

性格が暗く、よく自分を家具だといって卑下する点はシャノンより顕著。

死体がよく行方不明になる。

金蔵の死については知っているはず。

家紋の刺繍あり。

郷田俊朗（以下郷田）

本家の使用人。シェフ。

もともとはホテルのレストランに勤めていた料理人らしい。

趣向を凝らした料理は好評。

家紋の刺繍はないので金蔵の死は知らないのかもしれない。

南條輝正（以下南條）

金蔵の主治医。金蔵の数少ない友人。かなりお人よし。

金蔵との付き合いは古いらしく、ベアトリーチエについても知っている。

経営している病院は息子に任せて隠居しているらしい。

金蔵の死については知っていないとおかしい。

以上19人。

エンジエを除いた18人（金蔵は死んでいるが）が事件の関係者だ。俺の主観も入っているが、おおよそ間違っていないはず。

次は事件を整理しよう。

原作初日電車の中、まずは登場人物の整理（後書き）

登場人物の紹介。

公式なものではなくあくまでアニメを見た後の主人公の主観です。
悪意があるように見えるのは主人公にとって全員容疑者だからです。
次回は各EPの考察から。

原作初日電車の中、E P 1について（前書き）

1st game “Legend of the Golden
Witch” Result

右代宮 蔵白

第一の晩に、死亡。

黄金郷の鍵によって選ばれ、生贄に捧げられました。

右代宮 留弗夫

第一の晩に、死亡。

黄金郷の鍵によって選ばれ、生贄に捧げられました。

右代宮 霧江

第一の晩に、死亡。

黄金郷の鍵によって選ばれ、生贄に捧げられました。

右代宮 楼座

第一の晩に、死亡。

黄金郷の鍵によって選ばれ、生贄に捧げられました。

使用人 紗音

第一の晩に、死亡。

黄金郷の鍵によって選ばれ、生贄に捧げられました。

使用人 郷田

第一の晩に、死亡。

黄金郷の鍵によって選ばれ、生贄に捧げられました。

右代宮 絵羽

第二の晩に、死亡。

眉間を“アスモデウスの杭”にて貫かれました。

右代宮 秀吉

第二の晩に、死亡。

眉間を“ベルゼブブの杭”にて貫かれました。

右代宮 金蔵

第四の晩に、死亡。

眉間を“マモンの杭”にて抉られました。

使用人 嘉音

第五の晩に、死亡。

胸を“サタンの杭”にて抉られました。

使用人 源次

第六の晩に、死亡。

腹を“ルシファアの杭”にて抉られました。

主治医 南條

第七の晩に、死亡。

膝を“ベルフェゴールの杭”にて抉られました。

使用人 熊沢

第八の晩に、死亡。

足を“レヴィアタンの杭”にて抉られました。

魔女 ベアトリーチエ

第九の晩に、復活。

彼女はついに黄金郷の扉を開きます。

右代宮 夏妃

第九の晩に、死亡。

魔女は高潔さを讃え、決闘の名誉を賜りました。

右代宮 讓治

第十の晩に、行方不明。

魔女は、存在を認めて平伏した彼を黄金郷へ招かれました。

右代宮 朱志香

第十の晩に、行方不明。

魔女は、存在を認めて平伏した彼女を黄金郷へ招かれました。

右代宮 真里亞

第十の晩に、行方不明。

魔女は、存在を認めて平伏した彼女を黄金郷へ招かれました。

右代宮 戦人

第十の晩に、行方不明。

魔女は、存在を認めず否定する彼を黄金郷へ招くでしょうか。

『EP1 エンドロールより』

原作初日電車の中、E P 1について

E P 1はベアトリーチェの手紙から考えよう。

初日の夕食後、マリアが取り出した手紙は右代宮家の大人たちに衝撃を与えた。

差出人はベアトリーチェ。

その内容は金層の子らには到底認めることができないことだった。要約するなら、碑文を解け、さもなければ右代宮家の全てをいただく。

まず最初に彼らがしたことはマリアへの尋問。

マリアはベアトリーチェにもらったと言いつ張るが、当然信じない。疑心暗鬼に取り付かれた彼らは互いに疑い罵り合う。

その醜い争いに嫌気が差した子供らはゲストハウスへ避難する。

言い争いは深夜まで続いたようだ。

この場面だけでは容疑者は絞れない。

なぜならこの時マリアは一人で行動しており、他に目撃者はいない。その上、マリアにはばれないよう変装する必要すらない。

マリアに手紙を差し出し、

「ベアトリーチェからだよ」

といえばマリアはベアトリーチェからもらったと信じるだろうから。

そして日付が変わり早朝、朝食の準備にかかるうとしたが屋敷から人がいなくなった。

いなくなったのは6人。

クラウド、ルドルフ、霧江、ローザ、シャノン、郷田である。

やがてバラ庭園の倉庫から6人の死体が見つかる。
全員顔がぐしゃぐしゃになっており、見るに耐えない。

本人を確認するすべはおおよそ服装のみ。

倉庫には鍵がかかっており、その鍵は屋敷の使用人室にあった。
シャノン、郷田を除く4人は食堂で昨晚から話し合いをしていると
きに殺された可能性がある。

食堂には大量の血痕があった。

絵羽は複数犯の可能性が高いことを示唆したが、単独でも可能。
紅茶に睡眠薬を入れ、全員に飲ませ、眠った後に殺せばいい。

後は一輪車で倉庫に運び顔を壊す。

屋敷に戻り、金蔵の部屋に夏妃と絵羽が報告に行く。

しかし金蔵はいなかった。

絵羽は仕掛けを施し、金蔵の部屋のドアが開閉されていなかったこ
とを確認。

その不自然さを理由に夏妃を糾弾。

そして信用できない人間といることがいやだったのか、秀吉と2人
で客室へ避難。

食事の用意ができ、源次とカノンが2人を呼びに行くとドアにベア
トリーチェからの手紙が。

ノックして呼びかけるも返事はなし。

マスターキーで開場すると今度はドアチェーンが進入を拒む。

源次は夏妃を呼びに、カノンはチェーンカッターを取りに行く。

カノンが熊沢とともに再びきたとき、ドアには魔法陣が書かれてい
た。

チェーンを切り、中に入ると寝台で絵羽が、浴室で秀吉が絶命して
いた。

窓にも施錠してあり密室。

ドアチエーンまでかけられていて徹底している。

考えられるのは犯人が密室を構築後、部屋を出ていないというパターン。

家捜しをするシーンはなかったのであるかもしれない。

しかし全員がそろっていたはずなので19人目が必要になる。

それとも最初の6人の中に実は生きていた人間がいたのか？

いや、カノンの目を盗んで抜け出し、何食わぬ顔で現場に戻ってきたのかもしれない。

そしてもう一つはカノンが犯人、もしくは共犯説。

ドアチエーンが実はかかってなかった可能性。

そしてかかっていたが、犯人は中において、源次が現場を離れた後に犯人を逃がし、

自分がかかっているいないドアチエーンを切つて中に進入。

この場合は熊沢の目をどうやって盗むか。

もしくは使用人全員グル。

そうだったらやりたい放題である。

カノン共犯説が濃厚。

カノンには動機がある。

シャノンが死んで最大の容疑者は絵羽である。

絵羽はシャノンと譲治の交際を快く思つてなかった。

兄弟たちを殺し、碑文をなぞるために人数あわせのためにシャノンも殺した。

そう考えたカノンが復讐をした。

と考えると筋が通る？

その後、ボイラー室から変なおいが。

カノンと熊沢が見に行くが、誰かがいる気配を感じてカノンが熊沢

を置いて一人で行く。

そして杭のようなものを胸に刺さた。

熊沢の悲鳴を聞き駆けつけたとき、犯人の姿はなかったが、丸焦げの金蔵の死体を発見。

別室で南條に手当てを受けていたカノンは死亡。

ジェシカもそれを看取る。

ここで疑問。本当に死んだ？

死体を南條、ジェシカしか見ていない。

2人がカノンに協力した場合、カノンは生きてそのまま死亡者として自由に行動できる。

8人となった一同は金蔵の部屋に。

鍵は2本しかなく、共に手の内にあるため最も安全だからだ。

しかし、疑心暗鬼の夏妃は源次、熊沢、南條、マリアを部屋から追い出す。

そして変な電話を受け、夏妃たちは様子を見に行くとマリア以外の3人の死体があった。

マリアはベアトリーチェがやってきて殺したという。

バトラ、譲治、ジェシカが問い詰めている間に、夏妃は4人を部屋に閉じ込め、犯人と一騎打ち。

結果、夏妃は銃弾を受け殺される。時計は24時を指し、ベアトリーチェと以上。

そしてゲームオーバー。

うみねこのなく頃に生き残ったものはなし。

カノンが生きていたならカノンが犯人で問題なし。

最初の6人は絵羽は夏妃が殺した。

理由は財産の独占、もしくはケンカがもとで衝動的に。

そのほかはシャノンを殺されたカノンの復讐。

マリアの証言は夏妃かシャノンの服を使って変装。

他の人間では絵羽と秀吉の殺人が不可能だと思われる。
使用人全員とかの複数犯の場合、他人のために殺人の片棒を担ぐの
は難しい。

その上、殺されているし。

というわけでカノンには要注意。

絵羽や夏妃にも気をつけよう。

原作初日電車の中、EP1について（後書き）

何度もいいますが、これはアニメを見た直後の主人公の考察です。

EP5以降やアニメには出ていなかった赤を考慮していません。

ご存知の方なら赤でバツサリ斬ることでしょうね。

つまり作者はとっくに細切れになっているということですよ。

原作初日電車の中、EP2について（前書き）

2nd game” Turn of the golden
itch” Result

右代宮 蔵臼

第一の晩に、死亡。

黄金郷の鍵によって選ばれ、生贄に捧げられました。

右代宮 夏妃

第一の晩に、死亡。

黄金郷の鍵によって選ばれ、生贄に捧げられました。

右代宮 絵羽

第一の晩に、死亡。

黄金郷の鍵によって選ばれ、生贄に捧げられました。

右代宮 秀吉

第一の晩に、死亡。

黄金郷の鍵によって選ばれ、生贄に捧げられました。

右代宮 留弗夫

第一の晩に、死亡。

黄金郷の鍵によって選ばれ、生贄に捧げられました。

右代宮 霧江

第一の晩に、死亡。

黄金郷の鍵によって選ばれ、生贄に捧げられました。

右代宮 朱志香

第二の晩に、死亡。

背中を“アスモデウスの杭”にて貫かれました。

使用人 嘉音

第二の晩に、死亡。

胸を“サタンの杭”にて抉られました。

使用人 紗音

第四の晩に、死亡。

眉間を“マモンの杭”にて抉られました。

使用人 郷田

第五の晩に、死亡。

胸を“ベルゼブブの杭”にて貫かれました。

右代宮 譲治

第六の晩に、死亡。

腹を“ルシファアの杭”にて抉られました。

主治医 南條

第七の晩に、死亡。

膝を“ベルフェゴールの杭”にて抉られました。

使用人 熊沢

第八の晩に、死亡。

足を“レヴィアタンの杭”にて抉られました。

魔女 ベアトリーチエ

第九の晩に、復活。

彼女はついに黄金郷の扉を開きます。

右代宮 金蔵

第十の晩に、行方不明。

魔女は、存在を認めて平伏した彼を黄金郷へ招かれました。

右代宮 楼座

第十の晩に、行方不明。

魔女は、存在を認めず否定する彼女を黄金郷へ招きませんでした。

右代宮 真里亚

第十の晩に、行方不明。

魔女は、存在を認めて平伏した彼女を黄金郷へ招かれました。

使用人 源次

第十の晩に、行方不明。

魔女は、存在を認めて平伏した彼を黄金郷へ招かれました。

右代宮 戦人

第十の晩に、行方不明。

彼は、魔女の存在を認めて黄金郷へ招かれるでしょうか。

『EP2 エンドロールより』

原作初日電車の中、EP2について

EP2について考えよう

EP2では19人目の登場人物としてベアトリーチェが出てくる。そしてそれをマリアだけでなく、霧江とローザも目撃している。

10中8・9、誰かの変装だが、可能なのはジェシカ、シャノン、カノンの3人。

なつひと絵羽だとミニスカはないだろうし。

男たちは考えるのもおぞましい。

その後のシャノンとのやり取りも不可能と思われる。

正直、ベアトリーチェの出てくるシーンは全て妄想である可能性が高い。

ゆえにカノン、シャノンとのやり取りを知らない他者が変装するとその後のシーンで矛盾が生じる。

また、ここでバトラの可能性が浮上してくる。

もちろん女装はしない。できるのか？竜騎士さんだし？

理由、ハロウィンのキャンディーである。

ローザに踏みつけられて壊れたキャンディーをベアトリーチェが直すシーンがある。

もちろん魔法ではないだろう。

直す振りをして新しいものとすりかえる、この考えのほうがつくりくる。

しかし、あれはローザが駅の売店で買ったもののはず。

他者が用意するのは難しい。

しかし、2人だけそれができる人物がいる。

買った本人であるローザとマリアから1つもらっていたバトラである。

もちろん、穴はいっぱいある。

マリアがもつとたくさん買ってもらっていてみんなに配っていたとしたら外れである。

それにカノン、シャノン、源次までベアトリーチエが来ていることに肯定している。

バトラだとこれはないだろう。

ならやはりカノン、シャノン、ジェシカの3人か？

しかしそれはなぜ？そして源次まで肯定している理由は？

やはり使用人はグルなのか？

夕食の席、ベアトリーチエからの手紙をローザが披露する。

当然紛糾する。

大人たちは子供らを退席させ、源次にベアトリーチエを呼ぶように命じる。

深夜、教会で大人たちはベアトリーチエと会う。

そして全員が彼女を魔女と認めた。

このシーンはそもそも存在しなかった可能性もあるが、

その後の展開を考えるとあったかもしれない。

翌朝、教会で死体を発見するシーンがある。

発見された死体はクラウス、なつひ、ルドルフ、霧江、絵羽、秀吉である。

昨晚の教会のシーンのローザを除く全員が死んだことになる。

当然怪しいのはローザ。理由は黄金の独占？

教会には金塊が置いてあった。

伝説の10トンではないが純度が高そうなインゴットが何本も。

昨夜、ベアトリーチエは親族を教会に集めこの金塊を見せた。

「自分はすでに黄金を持っている」

EP3にも出てきた推理だが、10トンの金塊で親族を買収したの

かもしれない。

親族は皆、金に困っていたのでそれを承諾した。だが、その分配でもめる。

話はまとまらず、ついには暴力を振るい、勢いあまって殺してしまふ。

全員がパニックを起こし、生き残ったのはローザのみ。

ローザはベアトリーチェの仕業に仕立て上げた。

ローザは使用人たちを脅し、買収することで協力させる。

両親の死をみて激昂したジェシカはベアトリーチェの部屋へ行く。が当然ながらどの部屋にいるか知らない。

郷田とカノンが案内する。

背中を向けているジェシカをグサリ。

死体をジェシカの部屋に置き、鍵をかける。

ローザはマスターキーを持つ使用人たちが怪しいと騒ぎ、部屋から追い出す。

しかしこれはバトラと譲治を分断する罠。

男二人がそろっていたらさすがに殺すのは困難。

シャノンを餌に恋人の譲治をあぶりだそうとするが、

譲治が出てこないため南條と熊沢が死んだと騒ぎ立てる。

そして、シャノンが心配になった譲治は使用人たちと行動する。

結果、譲治は死亡。

部屋の鍵を閉めてシャノンと郷田は死んだ振り。密室完了。

このときバトラが生きているのは、体格のいいバトラと1対1では自信がないため。

さらにマリアが人質に取られる可能性もある。

ゆえに殺さない。

そして最後の一人になったバトラを殺す。

これでコンプリート。

そして誰も生き残ってない理由。

ローザは連帯保証人で多額の借金があった。

今回得た金で返せるが、どう考えても怪しい。

自分に殺人の容疑がかかるだろう。

そうなる社会的に死ぬ。

だったら実際死んだことにしよう。

身元不明の死体を用意し自分に見立てる。

金塊を一つ持って帰りそれで新しい生活を始める。

どうだろう？

穴はある。

これで魔女の赤い真実を抜けることができるかどうかだ。

特に、死んでいると宣告されている類である。

殺人、もしくは殺人幫助の罪で社会的に死んでいる、てのはどうだろう。

無理か？

なら、ローザが口封じに実際に殺した可能性がある。

これならいけるかも。

しかし、E P 1と犯人が変わってしまった。これはありなのか？

原作初日電車の中、EP2について（後書き）

ご愛読、ありがとうございます。

ここまで、私のつたない推理を読んでくださりありがとうございます。

このまま、EP3、4と書きましたらいよいよ原作突入です。

正直、この物語は最低限アニメを知っていることが大前提となっております。

うみねこをまったく知らない方にはちんぷんかんぷんだと思います
が気を悪くしないでください。

もしよければこれを期にアニメや原作をはじめのもいいかもしれません。

そして原作時間に入れば、アニメには出てこなかった赤文字も
反映させていきます。

できる限りアニメしか知らないという人にもわかりやすく楽しんで
もらえるようにしていきたいと思えますので今後ともよろしくお願
いします。

原作初日電車の中、EP3について（前書き）

そして黄金郷は崩れ去って闇の中へ…。

ただし、黄金の魔女のゲームに、ついに勝者が現れる。

勝者は、新しき黄金の魔女、エヴァ・ベアトリーチエ。
時間内に碑文の謎を解いたため。

17人は全員死亡。

うみねこのなく頃に、生き残れたのはたったひとり。

『EP3 エンドロールより』

原作初日電車の中、EP3について

EP3を考えよう。

EP3の最大の特徴は碑文のなぞを解いたこと。

しかし、それでも殺人は続いた。

魔女ベアトリーチエが継承された。

つまり、名前が継承されるという事実。

これはEP4にもつながる。

そして犯人は絵羽である可能性が高い。

ラストで自供しているシーンがあった。

過去のEPについても魔女でなく人間が起こしたと証明されたようなもの。

しかし、魔法や魔女が出てくるシーンが多く、信用に足る情報が少ない。

そして絵羽犯人説で解明できない謎、南條殺し。

生存している、絵羽、バトラ、ジェシカには無理。

トラップでも自殺でもないとしたら……

？事故死はありえるのか？

何条は目に怪我をしたジェシカの手当てをするために別室にいった。

ジェシカは絵羽が犯人だと言って相当興奮していた。

年寄りの南條では抑えきれないだろう。

加えて目が見えていない。

手当たり次第に突き飛ばしたはず。

頭の打ち所が悪くて死亡した。

南條の死体検証はアニメにはなかった。

死因についても触れられてはいなかった。

ならこれは可能性があるのか？

とりあえず、事件のおさらい。
夕食でマリアが手紙を読み、それを大人たちが問い詰めるのはこれまで通り。

霧江がマリアの知っているベアトリーチェに興味を持ったのが特徴的。

おそらく何かに気づいただろう。

それが何か、それが鍵を握っている気がするが、わからない。

そして翌朝、6人の死体が発見される。

死んだのは金蔵、源次、熊沢、カノン、シャノン、郷田。

金蔵はいつもの通り丸こげである。

6人の死体のあった場所には鍵がかかっており、その鍵は別の部屋の死体が持っていた。

つまり、数珠繋ぎに6人の部屋の鍵を持っている密室になっている。

6人は死亡している。

室内には犠牲者しかおらず、それ以外の人物は室内には存在しない。誰も隠れていない。

6人はトラップや自殺ではない。

以上赤文字。

正直、わからない。

推理の一つとして死体が持っていた鍵の一つを実は犯人が持っていた。

封筒を探る振りをして隠し持っていた鍵をさも封筒から取り出したかの様に振舞う。

これで密室は崩れるが、誰の犯行か特定できない。

というかそこまで細かい場面を覚えていない。

最初に死体を発見した人物が1番怪しいのだが。

絵羽の行動はどうだっただろう。

他には、実は鍵のかかっていない部屋があった。

他の部屋が数珠繋ぎになっていないことから、この部屋もそうだろうという思い込みにより注視していなかった。

そのため、犯人があけた振りをしたドアを鍵がかかっていたと思いつい込む。

密室であった、という赤字はない。

鍵が確かにかかっていたという赤字もない。

しかし、これもまた、犯人の特定は難しい。

そして動機、これがわからない。

絵羽が犯人として、これを行った理由は？

そして絵羽が碑文をとき、金塊を見つける。

するとローザが現れ、金塊が絵羽のものとして認めるものの、分け前を要求。

というより見つけたことを公表して兄弟で分けるように進言。

そして黄金の魔女は継承され、エヴァ・ベアトリーチェが生まれる。

エヴァはローザ、マリア母子を殺した。

クラウス、夏妃、ルドルフ、霧江、南條が一緒にいて、絵羽、秀吉

と一緒に、子供たちも別室で一緒。

一見アリバイがありそうだが、後にバトラが看破したように、

秀吉の証言に矛盾があれば絵羽のアリバイはなくなる。

動機は黄金の配分で揉めたこと。

ローザの死因から事故死と思われる。

マリアはそれを目撃し騒いだため死亡。

そして霧江が食料を取りに行くといい、本館へ。

ルドルフ、秀吉がついていく。

バトラの指摘どおり、絵羽のアリバイについて秀吉に詰問するため

だろう。

結果、口封じに霧江、ルドルフを射殺するも、秀吉を殺される。

薔薇庭園で発見されたクラウス、夏妃の死については疑問はない。

問題は譲治。

譲治がどうやって抜け出したのか。

なぜ殺されたのか。

謎がまだ多い。

原作初日電車の中、E P 3について（後書き）

遅くなつてすみません。

とりあえず、ジョージについて一言。

ジョージは凡人です。

学業成績も中の中程度。

特に秀でた才能もなく、人望もありません。

ですのでこの追い詰められた状況で思考は混迷を極めていきます。

この推理、むちゃくちゃだな！つてのもありますが、それもまたジョージです。

この悲しいまでの凡人、ジョージは真実にいたれるのでしょうか？
また次回、よろしく願います。

原作初日電車の中、EP4について（前書き）

「……………奇跡の魔女として宣言するわ。」

「ならば、絶対の魔女として宣言するわ。」

「「ベアトは絶対に勝利できない。そして奇跡は絶対に起こらない。」

「

『EP4 より』

原作初日電車の中、EP4について

怪しいのはバトラ。

最後まで生き残ったのはバトラのみ。

そのバトラが死ぬのはおそらく爆発事故死。

EP4では1998年、つまり事件の12年後の世界が書かれている。

そこでは12年前の事件は爆発事故によるものとされていた。

原因が何かは忘れたが、かなり大規模なもので生き残ったのは九羽鳥庵にいた

絵羽のみ。

つまり、バトラが全員を殺し、しかし爆発事故によってバトラも死亡？

EP4はEP3の続きと思ったが、そう決め付けるのはだめだろうか。

ベルンカステルはカケラという言い方をしていた。

それは可能性、平行世界のこととひぐらしで使われていた表現だ。

つまり、過去のEPは3つだが、すでに可能性はたくさんあり、EP4の1998年はそ

の1つに過ぎないのかもしれない。

EP4のエンジエの世界の1986年とEP3の1986年は別物であり、絵羽が生き残って

いるという共通点は偶然だということ。

だとするならば、EP4の1998年の情報はどこまで参考になる

のか？

しかし、エンジエのたどった真相は無視できない。

1つ目は、爆破事故があったこと。

2つ目は、ベアトリーチエの存在。

エンジエは19人以上以内という赤に対し、金蔵の死を仮定すること
とで19人目の

存在をバトラに示した。

本来なら事件唯一の生き残りである絵羽を疑っていたはず。

なのに存在しなかった19人目を持ち出したということは、真実を
たどる旅の中

で19人目の存在を確信したのではなからうか？

マリアの日記をポトルメールを見たことがあるという変な教授に見
せたシーン

がある。

あれにどのような意味があったのだろうか。

マリアの日記をエンジエは魔道書という言い方をしていた。

内容はまるきり妄想日記だが、その中であつたベアトリーチエの署
名。

そして他の落書きのような絵とは比べのにもならないきちんとした
魔法陣の絵

。

魔女ベアトリーチエを名乗る存在がいて、マリアはその人物と会っ

ている。

そしてボトルメールを書いたのもその人物。

しかし、正確な筆跡鑑定をしたわけではない。

それとも特定できる何かを他にも持っていたのだろうか。

EP4は信用に足る情報はほとんどないように思えてきた。

あるとすれば最後の部分。

ラムダデルタはこういった。

バトラの青き真実はほとんど間違っている。

言い換えればわずかにあたっている部分があるということ。

そこが突破口にならないだろうか。

ああ、もう時間がない。

空港についてしまった。

原作初日電車の中、EP4について（後書き）

いよいよ原作突入です。

ここからはジョージが生き残りのために動き回ります。
どのような物語をつむぐのかここに期待。

原作突入。(前書き)

六軒島へようこそ。

黄金の魔女はあなたを心より歓迎いたします。
まずはゆっくりとおくつろぎ下さい。

難しく考えることは何ありません。

起こることを、黙って、全て、受け入れる。

あなたに求められているのはそれだけなのです。

難易度は標準。

最初くらいは王道で参りましょう。

『EP1 オープニングより』

原作突入。

六軒島に着いた。

え？展開が速い？

仕方がないだろ。

バトラに会ってからは彼の独壇場だ。

こっちが思考に没頭できないくらいに騒ぎまくってた。

本当によくしゃべる。

アニメではほとんど描写がなかったが飛行機や船で落ちるだの

大声でわめく姿は笑いを通り越してウザイ。

逆に演技なのではと疑ってしまっ。

まあいい。

ここからは、どうやって生き残るかの算段をつけなくてはいけない。

バラ庭園にさしかかり萎びたバラをマリアが発見。

「うっ、かわいそう」

本物の譲譲治なら慰めて目印をつけるシーンだがここで原作ブレイク。

「かわいそうじゃないよ、マリアちゃん。」

「うっ？」

マリアが振り向き、皆も何言っただ？と見てくる。

うっん、注目されるのは恥ずかしい。

「このバラはね一足先に役目を終えたんだよ。僕らが来る前に咲ききって、後はま

た咲く日まで眠るんだよ。また来年咲く為に。それはかわいそうなことじゃないん

だ。だからマリアちゃんはお疲れ様って言ってあげて。」
「う〜・・・」

少し難しかったか？

でも何かわかったのか少し考えてから返事を返す。

「わかった。マリア、お疲れ様って言う。」

そういつてバラに手を合わせるマリア。

いや、死んだわけじゃないんだが。

「へえ、流石、譲治の兄貴。いい事いうぜ。」

「ホントだぜ。役目を終えて眠る、なんて大人だぜ。」

「いや、そんなことはないよ。」

従妹弟たちが褒めちぎる。

大人たちもこのやり取りを見て「流石譲治君ね」とか「バトラにも見習って欲しい

ぜ」とか言ってる。

照れる。マジ照れる。

保身に走っただけでこんな結果になるなんて。

原作になかった展開に対処できない俺。

そこからは概ね原作どおり。

カノンに会ってシャノンに会って食事をして遊びに行く。

ここからが勝負。

なんとしても生き残る！

原作突入。(後書き)

お久しぶりです。

長らくお待ちたせしました。

何とか完結まで持つて行けるようがんばりますので応戦よろしくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8862p/>

悲しきジョージ

2011年6月9日14時36分発行